

児童の実態を一番知っているのは「担任」であることから、事前の検討会では、担任が考えた手立てをどのようにすれば実現可能となるか、協働的に検討を行った。

研究授業を重ねていくと、各視点で授業づくりを行ってきたが、共通性が見られるようになった。見える化・可視化である。

情報（知識、思考、教材の場面など）を可視化し、さらにICTを活用することで、主体的・対話的で深い学びに近づくことができそうである。

【視点2】 地域資材や地域人材、体験や経験から学ばせる工夫（対話的な学び）

自分の身の回りの金銭の動きや地域社会と金銭のつながりを対話的に学べるよう工夫する（地域とのつながり）。

- ①労働に対する感謝の気持ちを育てるよう工夫する。
- ②地域に目を向け、地域の様子や地域の人、物について調べたり、まとめたりできるよう、地域資材の教材化を試みる。
- ③自分の考えと友達の考えを比べるなどし、自分なりの解決方法を見出すことができるよう工夫する。

★4学年 道徳科「お母さんのせいきゅう書」

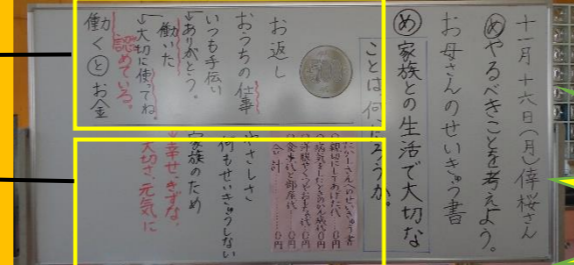
- 「家族愛」「勤労」「金銭」の関連性を捉えられるように、母親の行動を板書に書き出し。それを基に行動の意図を捉えさせた。
- 場面や思考の整理。
- 心情（行動の意図）を考える手立てになった。

▲道徳的価値と金銭教育のねらいとの指導をどのように区別するか。

→金銭教育年間指導計画の作成〈課題の解決〉

母親の行動1（請求書とおり、500円をあげている）。

母親の行動2（0円の請求書を差し出している）。



★3学年 社会科「うつり変わる市」

- 税金と実際物が結びつくよう、画像を用意し、ズームアップや書き込み。（ICTの活用）
- 実際物と税金とを結び付けさせることができた。
- 社会科の授業としても、地域の教材化を図ることができた。

タブレットを用いてズームアップしている。



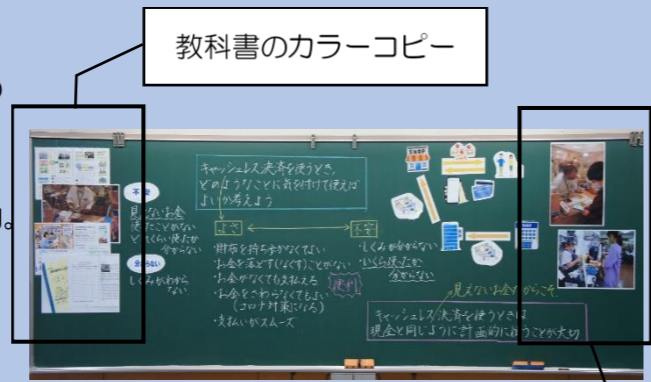
3つの視点の共通性  
—見える化（可視化）—

【視点1】 課題意識や課題解決の見通しをもたせる工夫（主体的な学び）

自分と金銭とのつながりや量感なども含めた金銭感覚、労働とその対価としての金銭、金銭の有効な活用などについて主体的に学べるよう、課題意識をもたせ、学びの動機づけができるよう工夫する。（人とのつながり）

★6学年 学活「キャッシュレス決済について知ろう」

- 教科書のカラーコピーや修学旅行での買い物の場面の写真の提示
- 児童に課題意識をもたせるのに効果的。
- 他教科・領域との関連性を意識させるのにも効果的。（認知面の振り返りにつながる）
- ▲板書の過情報。
- ▲時間の短縮が必要。
- ICT機器の活用。

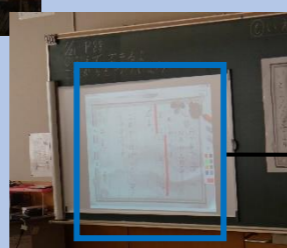


課題の解決と成果のリレー

教科書のカラーコピー



修学旅行で支払いをしている写真



児童の手紙を投影し、タブレットを用いてサイドラインをひいている。

児童の学びを模造紙に小単元ごとにまとめ、単元全体のねらいを意識させた。

★1学年 生活科「ひとりではできないよ」

- ICT機器（タブレット）を用いて、ワークシートの拡大やワークシートへの書き込み。
- 動画の視聴。
- 模造紙での単元の振り返り。
- ひとりひとりの学びの共有がスムーズ。
- 動画で主体的な学びにつながる意欲づけ。
- 単元のねらいを意識させることができた。

【視点3】 学んだことを日常生活に応用させる工夫（深い学び）

社会の中での金銭の動きや貯蓄、他者への募金、自己投資としてのお金の使い方を考えるなど、金銭について深く学べるよう工夫する。（未来とのつながり）

- ①自分や町の未来を見据え、自立への気持ちや志を高められるように工夫する。
- ②日常生活に応用することや、他教科・領域の学習の補充や統合ができるように工夫する。

★5学年 家庭科「整理・整とんで快適に」（模擬授業）

- 導入時に物への思いを想起させ、授業でその思いがどのように変化したかを振り返らせるようにした。
- 情意面の振り返りのためには、導入時に思いを問うことは有効。
- ▲金銭教育のねらいと違う方向にいかないよう、指導言の吟味が必要。
- 金銭教育のねらいの明確化
- 児童の意見を残す必要

課題の解決と成果のリレー

導入時のキャッシュレス決済についてのイメージ（考え）を黒板に残しておく。

★6学年 学活「キャッシュレス決済を知ろう」

- キャッシュレス決済についてのイメージを問い、児童の考えを板書に残す。さらに、終末に、その考えがどのように変化したか問う。
- 導入時の考えに戻る手立ては、振り返りに有効。
- ▲振り返りにつながる「しかけ」の在り方を検討していく必要がある。

